

自由工房

社会教育施設における生涯学習への取り組みの必要性の増大に応じて、自主制作の場として実技室を開放する「自由工房」を、週末の金曜から日曜日に通年開室し、広く県民に創作活動の場を提供した。祝日を加え週3日から4日の開室であった。

自由工房（通年開室）

参加者の自主制作を基本とするため中学生以上の個人を対象とし、インストラクター来室日には実技上の相談や助言を行った。参加者の活動内容は、実技室が持つ大型の版画プレス機を使った各種の版画、デッサン、水彩画、油彩画、館所蔵の美術ビデオの鑑賞など。期間は、他の講座で実技室を使用する日を除く毎週末の金、土、日曜日と祝日を基本とする。

開室日数 = 116日

10:15 ~ 16:15

講師 = 内山久子（美術家）

利用者数 = 717名

ロダン館デッサン会

ロダン彫刻の素描を通してより鑑賞を深めると同時に、新たな創作の場となることを期して「ロダン館デッサン会」を実施した。ロダン彫刻を素描する機会の提供に主眼を置き、参加者同士で行う感想会を、毎回終了時に設けた。技術的指導はなし。

期間 = 毎月第4金・土曜日（本年度計23回実施）

参加者数 = 300名

版画入門

実技室で行われている自由工房の中に、版画入門の日を設けた。基本的な技法、材料の扱い方をインストラクターがわかりやすく説明しながら実演した。本年度から、2日連続の内容に改めた。

リトグラフ = 4月5日・6日

シルクスクリーン = 5月10日・11日

銅版画 = 1月10日・11日

10:15 ~ 16:15

講師 = 内山久子（美術家）

参加者数（通算） = 52名

春季自由工房

『木版リトで描こう みんなの富士山』

期間 = 3月16日 ~ 20日（5日間）

10:15 ~ 15:00

参加者数 = 26名

場所 = 当館実技室・展示室

講師 = 当館実技室スタッフ

リトグラフ（石版画）に使われる石版石は、炭酸カルシウムを主成分とした天然石で、近年では手に入りにくくなっている。そこで、現在では亜鉛やアルミニウム版が多く使われているが、今回は木版で石版画を制作する講座を開催した。

木版の使用には、彫刻刀を使った表現方法も併用できる、子どもにもリトグラフが制作できるという利点がある。

参加者は春休み中の親子が中心。「富士山の絵画」展を鑑賞後、それぞれが心に描いた富士山を表現していただいた。



木版リトで描こう みんなの富士山

VIVA! RODIN ロダンへの4つのオマージュ

線のリズム ロダンのようにクロッキーしよう

日 時 = 平成15年9月20・27日

13:00 ~ 17:00

講 師 = 内山久子 (美術家)

場 所 = 当館実技室・展示室

参加者数 = 43名

「クロッキー」一般の方にはあまり聞き慣れない言葉である。短時間でする写生のこと(素描)で、日本では写生をスケッチ、略画・速写画をクロッキーと言う。当館で行われたバレエ公演にあわせ、踊るモデルを観察して、その瞬間の動きをロダンのようにクロッキーする実技講座を開催した。

人間がカメラのように瞬間の動きを捉えることは、非常に高度なテクニックと経験が必要である。実技講座では動きのない人物、彫像を短時間でデッサンする訓練から始めた。そして、リハーサル中のバレエダンサーを前にしてのレッスンを経て本番に臨んだ。

鍛錬を重ねたバレエダンサーの体は美しく、それに魅せられた参加者は普段の生活にはない緊張感を味わいながら、夢中で一人約100枚の作品を描いた。気に入った作品にはロダンのように着彩をほどこし記念の一枚とした。

バレエ・イン・ザ・美術館

深沢和子によるバレエへの招待

日 時 = 平成15年9月27日

15:00 ~ 18:00 ~

場 所 = 当館講堂・ロダン館・インテラスホール

参加者数 = 411名

演目・出演者

= パ・ド・カトル (岩城明美、作間 草、中山りん子、安部真由美)
薔薇の精 (ハルバート・キミホ、黄 凱)
ショット・ストラヴィンスキー (岩城明美、作間 草、中山りん子、安部真由美、大西 圭、大嶽夏美、植木真有)

ロダン体操をしよう

日 時 = 平成15年9月13・14日

13:30 ~ 15:45

講 師 = 高橋唐子 (現代美術家)

場 所 = 講座室・ロダン館

参加者数 = 27名

ロダン彫刻の見方

ロダン彫刻のまねをしよう!

日 時 = 平成15年10月26日

14:00 ~ 15:00

講 師 = 堀切正人 (当館学芸員)

場 所 = ロダン館

参加者数 = 34名



線のリズム 参加者の作品